

## 「かかりつけ医機能ハンドブック」2009の 発刊にあたって



東京都医師会 会長  
鈴木 聡男

本会では、救命や疾病の回復を第一義とする従来の医療の充実に加え、加齢や疾病による回復し切れない生活機能障害を抱えながら、大都市東京で懸命に生きる人々を支える「新たな医療モデル」の理念の構築と具現化について、かねてから「地域福祉委員会」を中心に検討を重ね、現場での活動を継続してきました。

この「かかりつけ医機能ハンドブック」2009は、その委員会答申を骨子に、少子高齢社会における医師の新たな役割について、提言や実践の知識、具体的方策などを体系化し、地域医療の道しるべとなることを願って、2005年から発刊し改定を行ってきたものです。

本書では、QOLをOUTCOMEとした、なじみの医師による「暮らしの場における医療」と、「安らかな看取りにまで至る総合的ケア」の在り方を論じ、これまで実地医家が担ってきた幅広い地域医療活動を、多分野連携のアプローチから再編し、「かかりつけ医機能」として明確化することによって、私たち医師が“自律的”にめざす、「地域医療、保健、福祉を担う幅広い能力を有する医師像」を描き出しています。

いわば本書は、東京都医師会から都民と会員、そして少子高齢社会に宛てた、新たな医療と医師像に関する「提言：ビジョン」であり、「達成目標：マニフェスト」であり「約束：コミットメント」であると考えています。

実地医家はもとより、多様な専門領域で活躍する医師、育児やキャリアデザインに取り組む女性医師、臨床研修で研鑽中の次世代を担う若き医師、そして医師とともに地域ケアを担う多様な職種の方々にも一読頂き、QOLを支える「かかりつけ医機能」と「総合的ケア」の実践の一助となることを願っています。

2009（平成21）年3月